

令和 3 年度

現代詩  
講座

## 詩のピクニック

## 詩集を読む

詩集は、詩人が思いを込めて編むものです。今年度は、代表的な詩集からいくつかの詩を選んで鑑賞し、一冊の詩集に込められた思いをさぐってゆきたいと思います。また、永瀬清子の詩も毎回一作品紹介します。

講 師	行吉正一（元・東京都江戸東京博物館学芸員） （順不同） 10月～11月、2～3月 北川久美子（高校非常勤講師）1月 井上直美（元・中学校教諭、岡山県詩人協会会員）12月 永瀬清子生家保存会会員 7月 赤磐市教育委員会学芸員 8月～9月
日 時	毎月1回・原則第2金曜日 13時30分～15時30分
場 所	赤磐市立熊山公民館1階講座室 ※当日の参加人数によっては場所を移動する場合があります。
対 象	一般（市内在住・在学・在勤）
募集人数	20人（先着順）
参加費	年額 1,000円（別途実費負担）
申込開始	令和3年4月1日（木）午前9時～

講座内容 2021年7月  
～2022年3月

## 7月9日（金）永瀬清子生家（赤磐市松木）で葉を作る。（入場料：300円）

生家まで散策し、清子の詩句が入った「葉」を蠟引きで仕上げます。

## 8月20日（金）永瀬清子・最晩年のてのひら詩集 1

鳥越ゆり子が制作した二冊のてのひら詩集を通じて、最晩年の永瀬清子を紹介します。

## 9月10日（金）永瀬清子・最晩年のてのひら詩集 2

最晩年の永瀬清子を書いた散文「かえりみて」を読みます。

## 10月8日（金）オリエンテーション・『道程』（1914年（大正3））高村光太郎

青春期の苦しみが表現された詩集です。文語にかわって平易な口語が使われました。

## 11月19日（金）訳詩集『月下の一群』（1925年（大正14））堀口大祐

フランスの近代詩340編の訳詩は、日本の詩壇に新しい風をまきおこしました。

## 12月10日（金）宇宙のすべてを愛し慈しんだ人—宮沢賢治—

永瀬清子の琴線に触れた賢治の生き方を作品などを通してみていきます。

## 1月14日（金）源氏物語の和歌に親しむ

須磨卷以降の歌を読んでいきます。

## 2月18日（金）『在りし日の歌』（1938年（昭和13））中原中也

詩人の死後刊行された詩集で、「在りし日＝過ぎた日」をうたった詩には静寂感が漂います。

## 3月11日（金）『定本 山之口獭詩集』（1958年（昭和33））山之口獭

山之口獭は放浪と貧困の中で、風刺とユーモアのある独特の詩を作りました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止や延期、内容変更となる場合があります。  
会場内ではマスクの着用や手指の消毒等、感染予防策にご協力をお願いいたします。  
咳や発熱等の症状がある場合や、ご体調がすぐれない場合は、ご来館をお控えください。